

■ 実務シリーズ4 ■

## 単行本の整理

### Ⅲ. 目録

松本純子

#### 1. 目録とは

目録とは、図書館が所蔵する資料の利用、すなわち検索のためのツールとなるものです。目録の形態には通常、カード目録、冊子目録がありますが、最近ではさまざまなニューメディアの発達により、その形態も多様化してきました。たとえば、蔵書をコンピュータ管理することにより、コンピュータに入力した書誌データからの検索やカード目録・冊子目録の作成が可能となり、目録業務の合理化、検索の効率化が図れるようになりました。

目録の記録媒体メディアをカード目録とするかコンピュータ目録とするかによって目録作業は異なりますが、目録の役割やその記載内容、また図書の情報源などについて理解していなければ効果的な目録作成はできません。そこで本稿では目録の基本であるカード目録をベースに目録業務について説明し、コンピュータ時代を迎えた今日、病院図書室における目録の将来についても考えてみたいと思います。

目録には次の機能があります。

- ①特定の著書、書名、主題が正確にわかっている場合に、その所蔵の有無と所在がわかる。
- ②ある特定の著者の著作、特定主題の著作、特定種類の著作がわかる。
- ③特定の図書の版次など書誌がわかり、資料

の識別に役立つ。

以上の目的にかなった検索ができるように、目録には検索の手がかりとなる標目が設定されています。

#### 2. 目録記入(略 記入)

図1-1は和書、図1-2は洋書の目録記入の構成要素と記入位置を示したものです。カード目録では1枚の目録カードが目録記入になります。

##### ①標目(heading, access point)

検索の手がかりとなる見出し語で各記入の冒頭に記載されます。標目には書名、著者名、件名、分類があります。

##### ②書誌的記録(bibliographic record)

記入における標目以外の記録部分です。コンピュータ目録においてはこの「書誌的記録」がカード目録の「記入」に相当します。

##### 1) 記述(description)

書名、巻次、副書名、著者名、出版関係事項、形態事項(ページ数、大きさ)、注記、資料の標準番号(ISBN)など

##### 2) 所在記号=請求記号(call number)

その資料の排架位置を示す記号。

##### 3) その他の事項

- i 標目指示、トレーシング(tracing)\*
- ii 事務的事項など

記録すべき書誌的事項はそれぞれの図書室の規模、特徴、あるいは記録媒体などによって異なりますが、必須の事項としては①書名(副書名、巻次)、②最初の著者名、③版表示、④出版者・出版年、⑤ページ数・大きさ、

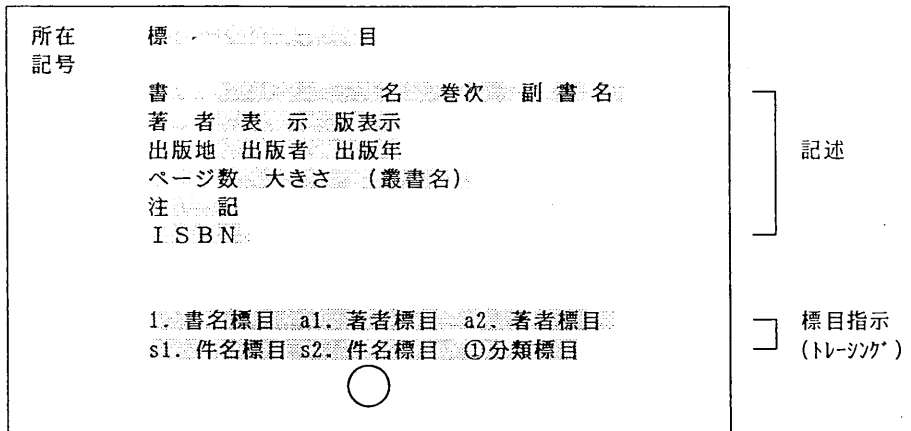


図1-1. 記入の構成要素と記入位置 (和書)

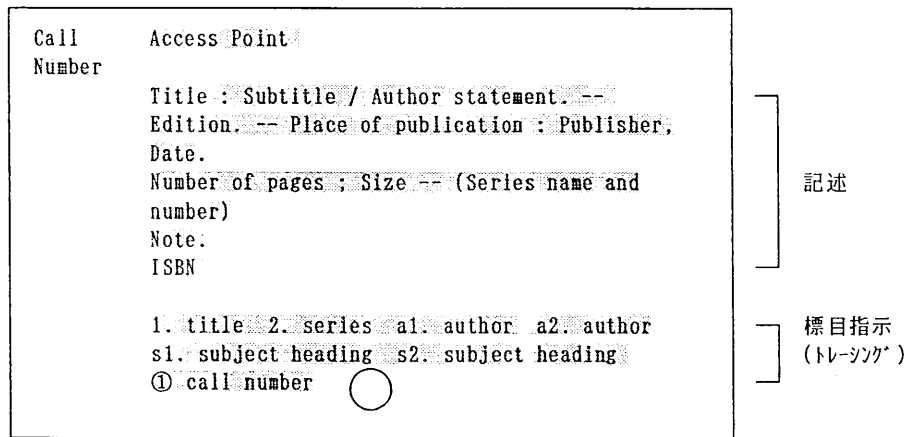


図1-2. 記入の構成要素と記入位置 (洋書)

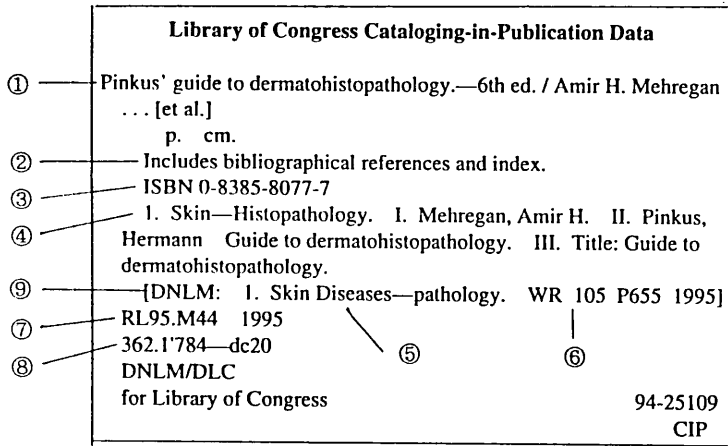
⑥叢書名があげられます。

東京に出版社が集中している日本では、出版地が東京の場合省略することもあります。また人文・社会科学系の図書に比べ、自然科学系の図書は、出版年が大きな判断材料になり重要です。

記述の情報源となるものには①標題紙、②奥付・背・表紙、③前とびら・標題紙裏、④ブックカバー・ブックケースなどがありますが、特に奥付にはその図書に関する詳細な情

報が記載されています。

洋書には、CIP (cataloging in publication) データが表題紙裏に印刷され、目録作成の参考になる書誌的情報を印刷しています。CIPは米国議会図書館 (LC) が、目録作成にかかる費用を安くし、図書をより早く閲覧者に提供するために出版者の協力を得て計画されたものです。ゲラ刷りなどで目録情報を作成しますので、通常、出版時に変更されやすい出版年や形態の記述は除かれています。



- ① 標題 (標目)
- ② 注記
- ③ 国際標準図書記号 (ISBN)
- ④ 副出 (LC件名, 編者, シリーズ名等)
- ⑤ Medical Subject Headings (MeSH)
- ⑥ 米国国立医学図書館分類記号 (NLMC)
- ⑦ 米国議会図書館分類記号 (LC)
- ⑧ デューイ十進分類記号 (DC)
- ⑨ Done by the National Library of Medicine

図2 CIPデータ

また、実際に出版された図書の表示とCIPデータが異なることがありますので注意が必要です。図2はCIPデータの1例です。

\*トレーシング：1冊の図書について何種類の目録カードを作成したかを示すもので、図書を除籍した場合には、目録中の当該図書についてのすべてのカードを除去する手がかりとなります。従って1種類しかカードを作成しない場合は必要ありません。

### 3. 目録規則

個々の図書の記入が不統一であると、目録を検索するさいに混乱を招くことになり、目録の役割を果たさないことになります。目録を作成するためには、その作成のための基準が必要です。この基準が条文などの文章にまとめられたものが目録規則です。

近代になって書誌情報流通の恒常化、広域化がすすみ目録規則にも国際的な統一が行われるようになりました。さらにコンピュータの普及が目録にもたらした影響は大きく、今日では多数の図書館がオンラインで接続され、共同で目録を利用する目録のネットワーク時代に入っています。

例えば記述に関する国際原則であるISBD (国際標準書誌記述)の記述法は、MARC(後述)を想定したものです。また、各々の図書に付与されているISBD(国際標準書誌記述)は、記号化することにより国際的に通用し、コンピュータの書誌コントロールにも有用なため、データの一部として記述されるようになりました。

日本の目録規則も国際目録原則を取り入れながら時代の変化に応じ改版を重ねてきました。現在は日本目録規則 (NCR) 1987年版 (日本図書館協会編) が出版されています。

#### 4. 目録作業

ある図書に対してその特徴を示す記述は一つであるのに対し、検索の見出しとなる標目は複数つくることができます。その複数の標目の中から、どれか一つを代表として特別扱いにするのが、基本記入方式と呼ばれるものです。NCR 1965年版や今日でも英米目録規則第2版(AACR2, 1978)ではこの基本記入方式を採用しています。

一方、標目はすべて対等でありどれが大事といえないとするのがNCR 1987年版の採用する非基本記入の方式「記述ユニット方式」です。

記述ユニットカード方式とは、基本記入のカードを一枚作れば後はこれを複製して、それに標目だけを付ける方法です。

最初に標目を選定しなければならない基本記入方式に比べ、記述ユニットカード方式は実務上も簡便にしました。

#### 5. 目録の種類

目録カードの種類には、同種の標目のみで編成された書名目録、著者目録、分類目録、件名目録があります。各目録の特徴は次の通りです。

書名目録：特定の図書を書名から検索するための目録です。書名についての記入を音順（五十音順またはアルファベット順）に排列したものです。

著者目録：特定の図書を著者名から検索するための目録で、著者名についての記入を音順に排列したものです。

件名目録：図書を主題から検索するための目録です。個々の図書の主題を表した見出し語、すなわち件名(Subject)を音順に排列したもので、件名の統一を図るために件名標目表\*\*を用います。件名目録では、利用者の求めている主題へ導くための件名参照\*\*\*が使われます。

分類目録：件名と同様、図書を主題から検索するための目録で、個々の図書に付けられ

た分類記号順に排列したものです。利用者のために分類上の記号を調べるための分類表が必要です。

いずれの目録カードも、基本カードのほかに必要なに応じて複数のカードを作成することができます。例えば、副書名、叢書名、シリーズなど(書名目録)、共著者、編者、訳者など(著者目録)、副数の主題あるいは複合主題を扱う図書に対して複数の件名(件数目録)、件名目録と同じように複数の分類記号(分類目録)があります。

以上の個別型目録に対して著者、書名、件名の標目の記入を一括して音順に排列編成した辞書体目録がありますが、NCR 1987年版では個別型目録を原則としています。

ところで、カード目録の場合物理的な制約もあり、実際に引かれることがあるかわからないカードを複数枚作成することには問題があります。その点コンピュータ目録は、むしろ多くの書誌データを入力しておくほど、コンピュータの高速機能によりさまざまな検索が効果的に行えるという利点をもっています。

病院図書室は人出が少ないため、手間のかかる目録作業の合理化が求められます。カードの種類、記載内容の精粗については最初に決定されなければなりません。蔵書数も少なく、利用者も限られている病院図書室にとって、大学や公共図書館のような多種類の目録カード作成や詳細な目録記述の必要はないと思います。また後述しますが、オンラインによる目録サービスが広範囲に実現するようになれば、病院図書室もその恩恵を受け、目録作成の労力から開放される時が来るであろうことが期待されます。

次に参考までにNCR 1987年版に基づいて作成した記述ユニットカード方式の記載例を示します(図3-1、3-2)。

目録法についての詳細は最後に資料をあげておきましたので参考にしてください。

# 自己心理学精神療法

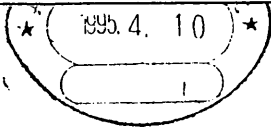
コフート以前からコフート以後へ

R・R・リー / J・C・マーティン 著

竹友安彦・堀 史朗 監訳

阪 永子・阪 武彦・堀 史朗・山下達久 訳

PSYCHOTHERAPY AFTER KOHUT: A Textbook of Self Psychology  
 by Ronald R. Lee and J. Colby Martin.  
 Copyright © 1991 by The Analytic Press, Inc. all rights reserved.  
 Japanese translation rights arranged with The Analytic  
 Press, Inc. in New Jersey through The Asano Agency, Inc. in Tokyo



岩崎学術出版社

(標題紙)

検印  
省略

自己心理学精神療法  
コフート以前からコフート以後へ

発行 第1刷 1993年11月1日

監訳者 竹友安彦  
堀 史朗

発行人 和田 節  
印刷 ㈱及文社印刷所  
製本 南共伸舎

発行所 岩崎学術出版社  
東京都文京区小日向1の4の8  
電話 代表 (3947) 1631  
振替口座 東京 7-58495  
※丁・漏丁本はおとりかえいたします。

1993年 岩崎学術出版社©

ISBN4-7533-9311-9

(標題紙裏)

(奥付)

WN 429	Lee, Ronald R.	— 標目
Le		
	自己心理学精神療法 コフート以前からコフート以後 へ Ronald R. Lee Colby Martin著 竹友安彦 堀 史朗監訳	] 記述
	東京 岩崎学術出版社 1993	
9816	406p 22cm 原書名: Psychotherapy after Kohut ISBN 4-7533-9311-9	
	1. 自己心理学精神療法 a1. Lee, Ronald R. a2. Martin, Colby s1. 精神療法 ① WN 429	] 標目指示 (トレーシング*)

図3-1. 記述ユニットカード方式 (和書 著者目録)

トレーシングからこの本については、書名目録、著者目録 (Lee, Ronald R., Martin, Colbyの2種類)、件名目録、分類目録の5種類を作成していることが分かる。

**Hypertension**  
Pathophysiology, Diagnosis, and Management

---

*Second Edition*

VOLUME ONE

Editors

**John H. Laragh, M.D.**  
*Director, Cardiovascular Center and  
Hypertension Center  
Chief, Cardiology Division  
Hilda Altschul  
Master Professor of Medicine  
The New York Hospital-  
Cornell Medical Center  
New York, New York*

**Barry M. Brenner, M.D.**  
*Director, Renal Division  
Department of Medicine  
Brigham and Women's Hospital, and  
Director, Harvard Center for the Study of Kidney Disease, and  
Samuel A. Levine Professor of Medicine  
Harvard Medical School  
Boston, Massachusetts*

Raven Press New York

**Library of Congress Cataloging-in-Publication Data**

Hypertension: pathophysiology, diagnosis, and management/editors,  
John H. Laragh, Barry M. Brenner.—2nd ed.  
p. cm.  
Includes bibliographical references and index.  
ISBN 0-7817-0157-0 (set)  
1. Hypertension. I. Laragh, John H., 1924- . II. Brenner, Barry M.,  
1937- .  
[DNLM: 1. Hypertension. WG 340 H996354 1995]  
RC685.H8H9144 1995  
616.1'32—dc20  
DNLM/DLC  
for Library of Congress

(CIPデータ)

(Title Page)

WG 340	Hypertension vol. 1	— 標目
La-1	Hypertension : pathophysiology, diagnosis, and management vol. 1 / ed. by John H. Laragh & Barry M. Brenner. -- New York : Raven Press, 1995.	} 記述
9813	1720p. ; 29cm. ISBN 0-7817-0157-0 (set)	
	1. title a1. Laragh, John H. a2. Brenner, Barry M. s1. hypertension ① WG 340	} 標目指示 (トレーシング)

図3-2. 記述ユニットカード方式 (洋書 書名目録)

トレーシングからこの本については、書名目録、著者目録 (Laragh, John H., Brenner, Barry M. の2種類)、件名目録、分類目録の5種類を作成していることが分かる。

\*\*件名標目表：ある概念を示す言葉は一つとは限りません。同義語や類縁語があります。一つ概念に対してそれを代表するただ一つの言葉を定めたもの（統制語）を表にしたものです。主な件名標目表には、基本件名標目表（日本図書館協会編）、Medical Subject Headings: MeSH (National Library of Medicine) などがあります。

\*\*\*件名参照：件名標目表を使って、利用者が求めている主題へ導くものです。「を見よ参照（"see" reference）」、「をも見よ参照（"see also" reference）」があります。

## 6. 目録の排列

NCR 1987年版は和書を対象としているため、分類目録を除いて、カタカナで表記された標目の五十音順としています。和書の標目の表し方には、かな、カタカナ、ローマ字がありますが、目録の種類や和書・洋書を別々に排列するか、混排するかによってどの表記を採用するか検討しなければなりません。

またローマ字で表す場合には、ヘボン式にするか訓令式にするか、外来語のつづりは原綴を用いるか、ローマ字読みにするかを統一しておく必要があります。病院図書室における和書・洋書の構成比および蔵書数を考えると、カードの排列は、和洋混排によるローマ字表記が適しているように思います。

ところで、和書の標目をかな、ローマ字で表記する場合、どこで区切るか、分かち書きが問題になってきます。すなわち字順排列（letter to letter）か語順排列（word to word）を決めなければなりません。

## 7. 目録・書誌情報サービス

コンピュータの発達は、図書館界にも大きな変革をもたらしました。図書館で受け入れる資料を単独で整理し目録作成していた時代から、他館と共同して目録を作成・利用する時代へと変化してきました。そしてこのような書誌情報の流通は、総合目録、印刷カード、全国書誌、MARC（後述）などの形で行われる

ようになり、今日では、書誌ユーティリティ（bibliographic utility、略BU）と呼ばれる書誌情報データベースの流通を第一の目的とする事業体が出現しています。

全国書誌とは国内で発行された著作の一覧で、網羅的に記録を集めたものです。国立国会図書館は、納本制度に基づいて収集した全国の出版物を集録した蔵書目録を刊行してきましたが、1981年からこれらの内容を磁気テープ化したJAPAN/MARCテープを頒布するようになりました。

印刷カードは目録集中作業による目録の標準化と個々の図書館の省力化を進める目的で、アメリカのLCで頒布されたのが始まりです。しかし、1969年からMARCテープの形でLCの目録情報が利用できるようになり、印刷カードの利用は減少しています。

わが国では1950年に国立国会図書館が印刷カードを頒布し始めました。その後、前述のように全国書誌の目録情報をコンピュータ化することにより、現在はJAPAN/MARCを利用して作成されています。

その他の印刷カードには日本図書館協会や大手の書籍取次業者のカードがあります。いずれもそれぞれが作成するMARCから打ち出されたものです。しかし印刷カードはわが国でも、現在はMARCの普及により重視されなくなってきました。

なお印刷カードはユニットカードとして用います。

## 8. ニューメディアとMARC

### MARC

コンピュータ可読の目録記入をMARCレコードといいます。MARCとはMACHINE READABLE CATALOGING（機械可読目録）の略です。目録記入をMARC化することによって、図書館業務、相互協力ネットワークに大きな変化が生じるようになりました。目録記入と同様にMARCでは一つの資料に対して一つの記録、すなわちMARCレコードを作りますが、この記録を書誌レコードと呼んでいます。

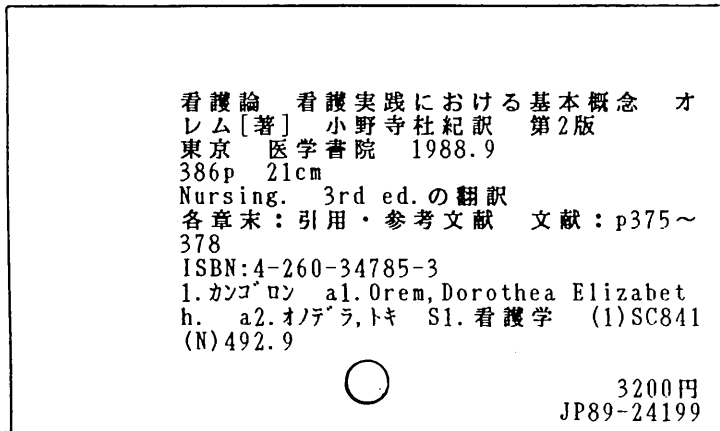


図4. J-BISC図書カード形式の画面からプリント・アウトした目録カード

米国議会図書館のLC MARC、英国の全国書誌MARCのUK MARC、わが国では国立国会図書館が編纂するJAPAN/MARCが代表的なMARCです。その他には大手書店や書籍取次会社の市販MARCである、日販MARC、TRC MARC、大阪屋MARCがあります。

パーソナルコンピュータの普及とCD-ROMの実現により、MARCのCD-ROM版が利用できるようになりました。国立国会図書館と日本図書館協会が協力してJ-BISC (Japan MARC on Disc)、N-BISC (Nippan MARC on Disc) とよばれるJAPAN/MARC検索システムを開発し、1988年からサービスを開始しています。1969年から最新までの図書情報を集録しており、カレント版、固定版、遡及版があります。パーソナルコンピュータで目録作業にも運用でき、目録カードの印刷もできます(ただしタイムラグがあることに注意)。CD-ROM化されたデータベースの利用システムは利用時間に制約されることなく、必要なときに利用できる利点があります。図4はJ-BISCからプリントアウトした目録カードです。

#### BU

年々増加する図書運営コストを削減するために、図書館相互協力によって効果をあげる

ことを目的に、1970年代、アメリカで書誌ユーティリティ (BU) とよばれる事業体が発足しました。BUの機能は、共有のデータベースにオンライン接続することにより、目録作業、相互貸借、レファレンスなどに利用できることです。MARCを中心とした膨大な図書館の書誌情報データベースを持ち、それぞれの図書館からオンライン接続ができ、それらの図書館が共同して作成した目録情報ファイルを維持しています。主なBUにはOCLC (1971)、UTLAS (1973)、WLN (1977)、RLIN (1978) 以上アメリカ、BLAISE (1978) イギリス、NACSIS (1987) 日本があります。

NACSIS (National Academic Center for Science Information Systems) は1985年文部省のもとに活動を開始した学術情報センターが、大学を中心とした学術情報システムの核として1987年に発足したBUです。病院図書室のNACSISの利用は、まだJICSTを介して目録所在情報の検索だけです。しかし長期的にみると、図書館業務の省力化を目指して開発維持されてきたBUへの直接アクセスが、将来、病院図書室、そしてさらに個人エンドユーザーにも可能になると予測されます。先に「目録作業の労力から開放される時」と述べたのはこのことです。



## 9. コンピュータと目録

以上述べてきたように、現在目録は過渡期にあるといえます。図書管理をコンピュータで行う場合も、自館で開発したソフトウェアを使う図書室、あるいは市販のソフトウェアパッケージを使う図書室があるでしょう。ソフトウェアパッケージの中には海外のデータベースや各種MARCともオンラインできるシステムを備えているものもあります。

コンピュータ目録の特徴には、①論理積、論理和、論理差を使って検索することができる。②標目に指定しないものも検索語となり、一つのレコードからさまざまな出力形が選べる。③漢字、ひらがな、カタカナ、英・数字いずれでも検索でき、和書・洋書を同一のデータで管理できる。④書誌レコード自体が組織的に排列され並んでいる必要はない、などカード目録に比べ多くの長所をもっています。

特に小規模図書館では、将来、カード目録が廃止され、パソコンや端末機から図書の検索を行うカードレスへと移り変わっていくも

のと思われれます。

目録はその図書室が存続するかぎり完結することはありません。目録の歴史の変遷とともに目録法も変化し、目録の形態も冊子、カード、ニューメディアへと発展してきました。病院図書室においても今後の目録の動向に目が離せない時を迎えているといえます。

### 参考資料

1. 図書館ハンドブック 第5版. 日本図書館協会, 東京, 1990.
2. 丸山昭二郎編: 講座 図書館の理論と実際 第3巻 目録法と書誌情報. 雄山閣, 東京, 1993.
3. 丸山昭二郎編: 図書館員選書6 洋書目録法入門 つくり方編. 日本図書館協会, 東京, 1986.
4. 丸山昭二郎編: 図書館員選書7 洋書目録法入門 マニュアル編. 日本図書館協会, 東京, 1988.
5. 日本目録規則1987年版. 日本図書館協会, 東京, 1987.